

新型コロナウイルス感染症専門家会議からの提言（2020年3月19日）

1. 政府及び地方公共団体への提言

【クラスター対策の抜本的強化】

- ① 地域でクラスター（集団患者）対策を指揮する専門家を支援する人材確保
- ② 地方公共団体間の強力な広域連携の推進を図る
- ③ 地方公共団体間で保持する感染者情報をそれぞれの地域のリスクアセスメントに活用できるシステムを作る
- ④ 保健所が大規模なクラスター対策に専念できる人員と予算を投入する事等

【北海道及び各地方公共団体へのお願い】

北海道の経験はほかの地域においても、政府との緊密な情報連携により、地方公共団体の首長による独自のメッセージやアラートの発出等が、地域住民の行動変容につながり、一定の効果を上げる可能性を示唆しているため、厚生労働省の情報を基に、自発的な取組の実施を考慮して頂きたい。

【3つの条件が同時に重なった場を避ける取組の周知啓発の徹底】

次の3つの条件が同時に重なった場を避けることへの周知徹底の充実

- ① 換気の悪い密室空間
- ② 多くの人が集まる密集場所
- ③ 近隣距離での会話をする密接場所

【重症者を優先する医療体制の構築】

重症者を優先する医療体制へ迅速に移行するため、地域の感染拡大の状況に応じて受診、入院、退院の方針を以下のように変更する検討をすべきと判断する。

- ・重症化のリスクが高い人又は高齢者、基礎疾患にある人については早めに受診していただく
- ・入院治療が必要ない軽症者などは、自宅療養する
- ・入院の対象を、新型コロナウイルス感染症に関連して持続的に酸素投与が必要な肺炎患者、入院治療が必要な合併症を有する患者、その他継続的な入院を必要とする患者
- ・症状が回復してきたら退院し、自宅待機で安静にする
- ・症状が軽い陽性者が、高齢者などと同居をしている場合は、接触の機会を減らすための方策を検討する。

地域の実情に応じた、重症度による医療機関の役割分担をあらかじめ決めておくことが重要である。

【学校等について】

春休み明け以降の学校については、多くの子どもたちや教職員が日常的に集まることによる感染リスク等に備えておくことが重要である。さらにオーバーシュートが生じた場合には、地域ごとの対応に関する基本的な考え方を十分に踏まえ、3つの条件を避けるための保健管理や環境衛生を良好に保つような取組を進めていくこと、咳エチケットや手洗いなどの励行などにも留意されたい。

また、教職員やその家族が罹患した場合並びに本人に発熱や風邪症状がある場合は出勤させないように徹底する等。

2 市民と事業者の皆様へ**【3つの条件が同時に重なった場における活動の自粛について】**

感染に共通する3つの条件を避けるだけで、多くの人々の重症化を食い止め、生命を救えるため、活動の自粛をお願いします。

- ①換気の悪い密室空間
- ②多くの人が集まる密集場所
- ③近隣距離での会話をする密接場所

【感染者、濃厚接触者への偏見や差別について】

感染者、濃厚接触者とその家族、医療従事者とその家族に対する偏見や差別につながるような行為は断じてゆるぎないため、報道関係者は個人情報等の配慮を。また、市民には高い意識を持つことをお願いしたい。

【疫学調査への協力について】

感染者、濃厚接触者の方々は保健所による積極的疫学検査にご協力をお願いします。詳しい行動歴を調査することで、感染源をつきとめ、他の感染者を早期に発見することが感染拡大防止には不可欠である。

【高齢者や持病のある方など重症化リスクが高い皆様へのお願い】

高齢者は比較的健康であっても感染し、重症化する可能性が高いことがわかっている。持病については良好にコントロールし、感染リスクを下げるような行動をお願いします。これまで外出が多かった方には不特定の人がいる場所などへの訪問は避けてもらう。

【高齢者や持病のある方に接する機会のある職業ならびに家庭の方へのお願い】

医療、福祉、介護などで働く人は一層の感染症対策を行うことや、感染のリスクの高い場所に行く機会を減らすことなどの対応が当分の間求められる。

【若者世代へのお願い】

無症状及び軽症の方が、本人が気付かないうちに広めてしまう事例が多くみられるため、3つの条件が集まる場所へ近づくことを避けていただくようお願いしたい。また、本人に発熱や風邪症状などがみられる場合には自宅で経過観察をするとともに外出を避けるよう徹底されたい。

【医療従事者へのお願い】

オーバーシュートが起これば感染症指定医療機関だけでは対応困難となり、多くの医療機関が新型コロナウイルス感染症の診療を行うことになる。その際は、医療機関ごとの役割分担を踏まえて医療ニーズの低減努力（一般外来患者受診間隔やファクス処方等）をお願いしたい。

【PCR検査について】

適切な対象者を検査することで、新型コロナウイルスに感染した疑いのある肺炎患者への診断・治療を行っているほか、濃厚接触者への検査により、感染のクラスター連鎖をとめ、感染拡大を防止している。すでに検査の受入能力は増強されており、今後もPCR検査が速やかに行われるべきと考えている。

【大規模イベント等の取扱いについて】

引き続き全国規模のイベント等については

- ① 多くの人が一堂に会するという集団リスクが想定され、その結果、地域の医療提供体制に大きな影響を及ぼしかねないこと（海外での宗教行事）
- ② イベント会場のみならず、その前後に付随して人の密集が生じること（札幌雪まつりのような屋外イベントでも3つの条件が重なったことにより集団感染が生じている）
- ③ 全国から人が集まることに伴う、各地での拡散リスク及び、それにより感染が発生した場合のクラスター対策の困難性（大阪のライブハウス）
- ④ 必ずしも屋内外や人数の規模に関係していないことから、大規模イベントを通して集団感染が起これば全国的な感染拡大につながると懸念される。

このため、地域の感染者の実情やその必要性に鑑みて、主催者がどうしても必要と判断する場合には①～③などを十分に注意したうえで行っていただきたい。

- ①人が集まる場の前後も含めた適切な感染症予防対策
- ②密閉空間、密集場所、密接場所などクラスター感染発生リスクが高い状況の回避
- ③感染が発生した場合の参加者へ確実な連絡先と行政機関の調査への協力などへの対応を講ずることが求められる

【事業者へのお願い】

- 多様な働き方で働く方も含めて従業員の感染予防に努めること。
- ・労働者に発熱など風邪症状がみられる際には、休みやすい環境を整備すること
 - ・テレワークや時差通勤の活用を推進すること
 - ・子どもの学校が学級閉鎖になった際には、労働者が休みやすい配慮をすること
 - ・感染拡大防止の観点から、イベント開催の必要性について改めて検討すること
 - ・クラスター感染発生のリスクの高い状況を回避するための取組に準じて従業員の集団感染予防に十分留意すること
 - ・海外出張から帰国した場合には2週間は職員の健康状態を確認し、体調に変化があった場合は、受診の目安を参考に適切な対応を取るように周知をすること